

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0170501803 | | |
| 法人名 | 三井ヘルスサービス株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームあかり | | |
| 所在地 | 札幌市白石区栄通16丁目6-16 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年10月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年1月4日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501803-00&PrefCd=01&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------|
| 評価機関名 | 有限会社 ふるさとネットサービス |
| 所在地 | 札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階 |
| 訪問調査日 | 平成27年12月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者にとって、いごちの良い生活をして頂くために、家庭的な雰囲気を保ち常に相手を敬う気持ちを持って接するようにしている。
 ・家族の方が来訪された際は、必ず日常生活の様子をお話している。
 ・地域の方とも仲良くさせて頂き、推進会議への参加や町内会のお祭りに招待して頂きました。又消防訓練へのお手伝いも積極的に参加して頂きました。
 ・近所の方は、自宅で収穫した野菜を持って来てくれるなど和気あいあいとしている。
 ・年1回のあかり祭りでは、近所の方や地域の方々が多く参加して下さいました。
 ・職員の資格取得や研修参加を積極的に呼びかけており、実際資格取得や研修参加を行っている。又、研修費用の全額、資格取得費用の貸付制度等を会社が行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは地下鉄やバス停からも近く、家族や知人の方々が訪れやすい場所に位置しています。1階にはデイサービス事業所が併設され避難訓練や「あかり祭」を合同で行っています。開設して13年が経過していますが、地域の方々からは運営推進会議への多数の出席、災害時やホーム行事への協力の申し出、町内会行事への招待、家庭菜園で採れた野菜やウエスにとタオルを届けて頂いたり、小学校のPTAからはタオルの贈呈があり、職員は感謝の意を表しています。利用者は、高齢化に伴い介護度や医療依存度が高くなっており、全員での外出は困難になっていますが、職員の状況に応じて多様な外出行事を企画したいと考慮しています。職員は、利用者がその人らしく生活できるよう支援に努めている「グループホームあかり」です。

| V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します | | | | | | | |
|--|--|---------------------|--|----|---|---|---|
| 項目 | | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) | ○ | 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) | ○ | 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20) | ○ | 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12) | ○ | 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝定時に行うミーティングにてスタッフ全員で理念を唱和し、理念の意識を共有し、実践に生かしている。社内の新人研修も行っている。 | ホーム理念とケア理念をホーム内に掲示しています。入社時に理念の意義を説明し、毎朝復唱することで理念の意識付けを図っています。職員間に於いても理念に沿ったケアサービスであるかを確認しています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方と交流が持てる様行事などに参加し地域と一体となってサービスに取り組み、行事に参加することで地域の方に認知症の方の生活等を理解していただいている。 | 町内会やホームの行事(祭り等)には相互に参加交流しています。地域の方々からホームへのさり気ない気遣いが数多くあり、職員は感謝の意を表しています。地域資源の役割として認知症サポーター養成講座を開いています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々に、認知症を理解して頂ける様努めている。また、事業所を利用し、認知症の人の理解を深めて頂こうと認知症サポーター養成の講座を企画している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 推進会議において、取り組んできたサービス、現状等を報告し、意見を取り入れサービス向上に反映している。又、町内行事にも必ず参加させていただいている。 | 運営推進会議は定期的開催され、多数の町内会関係者や民生委員、協力医、家族、地域包括センター職員の出席の下、身体機能改善策や災害対策等が協議されています。家族には、会議の内容をホーム便りで伝えています。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村への行き来は現在行っていないが、管理者がケア連絡会に参加し、横の繋がりをつくっている。 | 行政への提出物は郵便かメールで届けています。管理者は必要時に応じ、担当窓口を訪れホームの実情を報告しています。課題に対し改善に向けての助言を頂いています。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 実際にホーム内において危険行為のある方が3名おり、家族の同意を得て夜間のみベッド柵を使用するなど必要最低限の身体拘束にとどめようと努力している。 | 禁止の対象となる具体的な行為11項目を含めたマニュアルを整備しています。外部・内部研修等で身体拘束防止への理解に努めています。代表者や統括施設長も注意を促し、職員間でも注意し合える関係にあります。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会、社内外の研修を通し、虐待防止に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在該当する入居者がいらっしゃらず、取り組む機会はないが、研修、勉強会等により、徐々に理解は深めてきている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約・解約等の説明を丁寧に行い、理解及び、納得を得られている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホーム連絡先、外部関係機関への連絡先をホーム内に掲示し、連絡しやすい環境づくりを心掛けている。また、玄関に匿名性の意見箱を設置し、意見要望を伝えやすい環境づくりに努めている。 | 家族には来訪時や毎月発行の「ほのぼの通信」と個別の便りで利用者の日常を伝えていきます。利用者や家族の意見は関わりの中で伺っています。家族の要望で医師と相談の上、薬の量を減らした事例があります。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は数回に及ぶミーティングや勉強会だけでなく、毎日のカンファレンスの中で職員の意見や提案を聞き入れ、その都度話し合いを設け、より良い職場環境づくり反映している。 | 代表者や統括施設長は随時ホームを訪れており、職員は意見を述べています。管理者は個別面談を行い、就業環境の整備に努めています。ケアサービスに関連することは全職員で企画し実行しています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 月に何度かホームに来所され、職員とコミュニケーションをとり質問、意見に耳を傾け、常に状況を把握されている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修への参加を促しており、実際に参加している。又、介護福祉士やケアマネージャー等の資格試験の受験も積極的に促している。研修で得た知識、技術を現場で実践できる様働きかけている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | グループホームとの連絡網を作成し意見交換や相互訪問等を行うことで、取り組みを比較し、改善点等があれば積極的にケアに取り入れる様努めることで互いのサービス向上に努めている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の生活歴や趣味、願い等をあらかじめ理解しカンファレンスにおいて職員間でそれを共有する様努めている。本人の気持ちに共感し、不安なことに対しての対応を伝え、安心、信頼を築いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 常に家族とは連絡を行い、要望や困っている事、不安な事に対してはその都度対応し、解決できるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 医療機関との連携も含めて対応できるように努めている。近隣の病院と連携し、24時間対応してもらえるようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事仕事や畑仕事、日曜大工等、ご本人の得意なことを通じて、喜怒哀楽を共有している。利用者の得意な事を通じ、学んだり、支え合う関係を築いていく。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月新聞を作成し、行事や日常生活の報告をしている。家族交流会などを通じて情報交換し、一緒にご本人を支えていく関係が築けている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | メモリーボックス等を設置し、本人の馴染みの物を使用して頂くように努めている。又、家族との連携を図り、馴染みの人や場所との関係が途切れないように一時帰宅をしたり、親戚友人に会う機会を提供している。 | 利用者自身から馴染みの人に会いたいとか懐かしい場所に行きたいなどの要望は聞かれませんが職員は、生活歴や会話の中から馴染みの関係を把握し、家族の協力を得ながら地域社会との繋がりを大切にしています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員も一緒に関わりながら利用者同志関係を把握し、楽しめる関係作りに努めている。本人や家族からの情報収集、又、職員が感じた事を記録に取り、職員間で情報の共有を行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去時にいつでも相談に応じることや遊びに来て下さいとお話している。実際に、退去後にもご家族が来訪されたり、管理者と話をされることがある。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いに沿った暮らしができるように情報収集に努め、困難な場合でも、本人の気持ちを汲み取り、理想の暮らしに近づける様取り組んでいる。 | 利用者が希望を表すことは殆どありませんが職員は、家族からの情報や利用者との会話から得た情報を共有し、満足感に繋がるケアサービスに努めています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族から情報収集し、生活の記録からその人の特徴を見極めた上で、その人にあった生活環境が保てるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 記録を取りながら利用者一人ひとりの生活リズムの把握や、利用者の声に耳を傾け、その人にあった対応を行っている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の意見や家族情報等によりどのようなケアが良いのか課題を検討した上で介護計画を作成している。状況に変化があった場合は、必ずアセスメントを行い、カンファレンスを開き、解決に努めている。 | 利用者や家族との関わりの中で利用者がどのような暮らしを望んでいるかを把握しています。担当職員を中心に全職員で要望に沿ったケアプランを策定しています。個別の生活記録にケアプランを記載し実践を記録しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活記録の確認や日々の申し送り等により情報を共有した上で月に1度カンファレンスを行い実践や計画の見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設のデイサービスと協力し合い、行事(あかり祭り)などを行って利用者、家族の方にも楽しんで頂いている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 年2回行っている消防訓練の際には町内会の方々も参加して下さっている。また、年1回地域の小学校PTAの方々より、タオルの贈呈がある。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホーム内の看護職員と連携しながら健康管理を行い、医療的立場から指導して頂き、互いの情報の交換も密に行っている。 | 協力医を主治医とし、必要時には往診の依頼や週1回の歯科医の往診支援を行っています。他科への受診は、家族の協力を得ながら職員が同行しています。診療内容は関係者の共有としています。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホーム内の看護職員と職員が共同し健康管理や医療活用の支援を行っている。また、Ds併設により看護職員がいる日中医療的な問題があった際は即座に相談する事ができる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|---|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者との情報交換や入院中だけでなく、退院時の相談にも努め連携もとれている。また、ADL低下防止の為、出来るだけ離床を心がけ医師指示の下、病状に合わせて訪問リハビリも行っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 早い段階で話し合いを設け、医師と家族の方及びホーム側との連携を密に行い、事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明し、サービス方針を共有している。 | 契約時に医療体制を書面で説明し、同意を得ています。重篤時には改めて対応指針を説明し、同意書を得ることになっています。職員はさらなる知識や技術の向上に努めています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生に備え、年1回の研修に必ず職員を一人出席させ、勉強会において研修内容を共有する事で実践力を身に付けている。また、マニュアルも作成している。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域との連携を行っており、年2回の訓練を全職員及び地域の方々にも参加して頂き行っている。今年度は2回夜間想定し行った。 | 消防署の指導や地域の方々の協力を得て、併設のデイサービス事業所と合同で地震を含めた日中・夜間想定避難訓練を3回実施しています。災害時備蓄品も用意されています。 | さらなる災害対策として公的避難場所や経路の確認と家族への周知、ハザードマップ等で想定される被害の種類の確認をし、行政や町内会との協力体制の強化を期待します。 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの誇りを大切にし、プライバシーの保護にも気を配っている。また、個人情報管理を徹底している。 | 職員は利用者に優しく接し、声の大きさも心地良い響きになるよう努めています。入浴時は同性介助を基本とするなど、羞恥心への配慮や個人情報書類は事務室で管理し、プライバシーも確保されています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりの個性を理解し、なるべく思いや希望を表しやすい環境づくりを努める事で自己決定を促している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | 日々の生活の中で利用者本位を心がけ、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせた支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者と相談し、希望に沿った衣類選びをしている。2ヶ月に1回の調髪において理容師によるヘアカットや毛染め等も行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その人が出来る範囲で食事・調理・片づけをスタッフと共に行い、コミュニケーションを図りつつ、楽しみながら食事を出来るよう支援している。 | 利用者と食事を作り食卓を囲んでいます。おやつに「すあま」を作ったり、敬老会にはお寿司、ハロウィンパーティーではバイキングを楽しんでいます。外食時は嬉しそうな表情が見られ、職員にとっても大きな喜びになっています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 味を変えたりトロミを付けたりする等1日の水分摂取量を確保できるよう工夫しながら飲用して頂き、個人の食事管理にも努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを行い、本人の行き届かない部分は介助を行う。週に1度訪問歯科往診を利用し、清潔保持に努めている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄表を作成し日々の排泄状況を記入する事で、排泄リズムを把握し、自立排泄困難な利用者には定時に排泄誘導を行っている。 | 利用者が布下着を着用するよう取り組んでいます。衛生用品を使用する場合は、必要最少限としています。排泄チェック表を参考に、声掛けや誘導を行いトイレでの排泄支援に努めています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便通に効果があるお茶を使用し、その人に合わせた運動や食べ物などを提供している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている | 入浴の曜日は決めているが、要望に応じて随時入浴可能に努めている。また、同性介助に心掛けている。 | 週4回の入浴日を設けています。基本的に午前と午後に週2回の入浴支援を行っています。職員の支援の下、利用者は湯船に入り、歌ったり、会話を楽しんでいます。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人のリズムに合わせて休息して頂いている。夜間は2～3時間おきに巡回を行う事で、安全確認に努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 体調の変化には敏感だが職員一人ひとりが薬の内容、副作用についてすべてを把握できていないため、情報の共有に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その人に役割を提供し生きがいを感じて頂き、余暇活動等を日々行い、退屈と感じさせない毎日を送れるように支援している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は東屋にて日光浴や畑仕事、近くのサイクリングロードまで散歩など、戸外に出る機会を設けている。だいたい月1~2回は外出行事を設け、出かけるように心がけている。 | 利用者は職員の同行で散策や敷地内にある東屋で休んだり畑の手入れ等で外気に触れています。八紘学園でソフトクリームを味わったり、アサヒビール園でバイキングを楽しみ食欲も増しています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望に応じて好きな衣類や食品を一緒に購入している。全員ではないが金銭管理は本人に任せ使用している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の訴えなどがある時は電話を掛けたり、手紙の郵送を行っている。また、ご家族から電話があれば本人に取り次いでいる。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | TVやラジカセなどの音量や照明の強度の調整を行い過ごしやすい環境づくりに努める。また、花や飾り(鯉のぼりや雪だるまのろうそく等)で季節を感じて頂く。さらに身体にあわせた椅子などを使用し、ソファなどを用意し、利用して頂き、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。 | 共用空間は採光や温湿度、清掃等に配慮されています。居間は程よいスペースがあり、中央のテーブルを囲み、利用者と職員は食事や会話、レクリエーション等を楽しんでいます。ハロウィンでは、職員が魔女に変身して利用者を喜ばせ楽しい時間を過ごしています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 馴染みの関係が出来、個々に合ったゲームや工作などを行う一方で、共用空間の中でもその時の気分で一人で過ごせるように配慮している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れた家具・装飾品・写真を持って来て頂き、馴染んだ環境を疑似的に作り出し、居心地良く生活してもらえるよう工夫している。ご自身で作られた作品なども掲示している。 | 居室の入口にメモリーボックスを設置し、懐かしい写真や人形などを飾っています。生活用品や仏壇、写真や利用者の作品等が利用者の部屋としての存在感を示しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム全体がバリアフリーとなっており、外に出る際には、個人の状況に応じて階段やエレベーターを使用している。 | | |